

月刊

地域保健



●座談会

保健師活動の原点に立ち返る
みてきいて・つないでうごかし・つくってみせる

●FACE2009

島田美喜さん

社団法人全国保健センター連合会事務局長





社団法人全国保健センター連合会事務局長

島田美喜 さん

素晴らしい活動は基本的に忠実です。

個人・家族・集団をつなげる活動を

昨年秋の世界金融危機から、全国で大変な状況が続いているなか、アメリカではオバマ政権が発足、新しい時代が幕を開けました。わが国

でも時代の空気は「チエンジ！」を求めています。課題山積の保健師の世界も変革のときを迎えていよいよです。この4月、全国保健センター連合会の新しい事務局長に、東京慈恵会医科大学の島田美喜さんが就かれました。なにやら秘策をもつていそうな新事務局長にインタビューを試みました。

ことですか。

「まず、事業ありき」では先細りになる

—2年目を迎えた特定健診・保健指導についての意見をお聞かせください。

島田 「メタボ」という言葉は全国的に広まり、今は子どもたちでも知るようになりました。生活習慣病予防は子どものころから始めなければなりませんから、啓蒙という点では評価できるところがあると思います。また、産業保健など閉じた組織の中で使うツールとしてはすぐれていると思います。

—保健師を増やす手段としてこれまでを支持する声もありますが、本当に市町村保健師活動のマンパワー強化に結びつくのか、不明なところがあります。今回の交付金措置でも、実際に手を挙げている自治体は思ったほど多くないようですから。

たとえば、宮城県の丸森町は人口約1万6000人に対して保健師は10人もいます。同町に聞き取り調査を行ったときに印象的だったのは、保健師たちの活動が基本的に忠実だということでした。何か特別な秘訣があるわけではなく、地域の状況を把握し、問題点を住民に投げかけ、問題意識を持つもらうという教科書どおりの活動をしっかりやっていたのです。住民を動かすことができれば議員さんも動くし、ト

ただ、特定健診・保健指導は個人に焦点を当てたものなので、地域で展開する場合には地域全体を見る視点が軽んじられるのではないかと危惧しています。

たとえば、宮城県の丸森町は人口約1万6000人に対して保健師は10人もいます。同町に聞き取り調査を行ったときに印象的だったのは、保健師たちの活動が基本的に忠実だということでした。何か特別な秘訣があるわけではなく、地域の状況を把握し、問題点を住民に投げかけ、問題意識を持つても

そうです。でも公務員削減の流れがあるとはいえ、保健師が素晴らしい活動をしていれば、それが首長さんに認められ、人數を増やしてくれることは期待できます。当たり前のようですが、いい活動をすること、それを首長さんに分かっていただくようにアピールすることが真の解決策なのかなと思います。

島田

そうです。でも公務員削減の流れ

保健師活動の原点に立ち返る

みてきいて・つないでうごかし・つくってみせる

力を「みてきいて・つないでうごかし・つくってみせる」の標語にまとめた。個人支援はもぢろん、予防活動から地域全体の健康づくりに広げ、成果をアピールする力までを専門能力として整理したのである。

座談会では、職能委員会の検討会で委員を務め、地域で「みてきいて・つないでうごかし・つくってみせる」を実践してこられた方々にお集まりいただき、今後の保健師活動はいかにあるべきかを議論していただいた。



憲法25条の規定に基づき、貧富を問わず健康な人から病人まで、地域に住むすべての人の健康づくりを目指してきたのが、かつての保健師活動である。時代は変わり、保健師の活動領域は広がっている。その半面、分散配置や業務分担制の弊害が指摘され、事業をこなすことが目的と化しつつある現状を危惧する声も聞かれる。保健師の専門性は何か、保健師でなければならないことは何かが今、問われている。こうした現状を踏まえ、日本看護協会保健師職能委員会では検討会での議論をへて、保健師の専門能



清水多實子さん
社団法人日本看護協会
保健師職能委員長
(学校法人西大和学園
白鳳女子短期大学
地域看護学 準教授)



佐々木峯子さん
●司会●
社団法人日本看護協会
保健師職能委員長
(東京都委託在宅
重症心身障害児(者)
訪問事業
東部訪問看護事業部長)



正藤露子さん
社団法人福井県看護協会
保健師職能委員長
(坂井市役所健康
長寿課 課長補佐)

廣江君子さん
社団法人岐阜県看護協会
保健師職能委員長
(前・岐阜市南
市民健康センター所長)



長雄市子さん
社団法人神奈川県看護協会
保健師職能委員長
(前・横須賀市
西健康福祉センター館長)



渋谷由美子さん

東京都足立区役所 足立保健所 地域保健係

●文・写真 西内義雄（医療・保健ジャーナリスト）

ニーズの高い東京・下町で

保健師デビュー

大切にしたい
先輩が紡いだ
住民との絆



勤務先のセンターにて。マンションや一戸建てが並ぶ住宅街の中にある

「東京の保健師さんはどんな活動をしているの？ どうして東京を選んだの？」

この連載で出会う各地のひよこさんからよく質問される。これがなかなか答えづらい。実をいうと私もよく知らないのだ。そもそも、自分の住んでいた区の保健師さんに出会ったことがない。訳あって住民健診は5年連続受けていながら、それに対する催促や問合せさえ一度もない。きっと成人に構っている暇はないのだろう…くらいの認識だった。

だから地方の保健師事情には詳しくても都内はまるで…。灯台下暗しである。

そこで今回は多くの人から要望があり、私自身も興味を持っていた東京23区内のひよこさんとに会いに行つた。足立区を選んだのは東京の下町的な部分と新興住宅地の部分を併せ持っているからで、23区で唯一一戸建てが買える

地域とも評されているところである。ちなみに人口はおよそ65万人（保健師77人）。これだけで地方の県庁所在地並みの規模になってしまうため、各所に保健センターが配されている。

今回お邪魔したのは区の東側に位置する東和地区を管轄する足立保健所東和保健総合センターだ。2009年1月の統計によると、この地区だけでも人口はおよそ12万7000人（約6万世帯）になるようだ。

くものだという考えがあつて、自分も何か資格をとつて働くことを思い描いていました。そして私が小6くらいのときに祖父の認知症が進み、おむつの取り替えなども家族と一緒にやっていました。そういう下地があったからだと思います」

鮮烈な印象を残した 看護師の輝く姿

ひよこさんは地域保健係に所属して3年目の渋谷由美子さん、24歳。お隣千葉県、野田市出身だ。いつものように保健師を目指したきっかけから聞いてみると

「うちの両親は公務員の事務職だったせいか、子どもの頃からお母さんは働



センターの1階にある子育てひろば